

2019 年度卒業設計優秀作品 大学の部

銀賞

「空き」の営み

加野 和奏 北海道大学工学部環境社会工学科建築都市コース

銅賞

「耕人たちの帷幄」—温泉熱の転換による、農産共同体の暮らしと風景の提案—

山内 翔馬 北海学園大学工学部建築学科

銅賞

「触風景」

坂本 修也 北海道科学大学工学部建築学科

2019 年度卒業設計優秀作品 短大・高専・専門学校の部

金賞

「海を歩く」

黒澤 奎太 北海道芸術デザイン専門学校建築デザイン学科

銀賞

くわのきクラフトセンター

北海道庁西 18 丁目別館の再利用による市民工芸センター・資料館の提案

濱田 智紀 青山建築デザイン・医療事務専門学校建築学科

銅賞

未来を支える~新型牛舎モデル~

一條 桃華 北海道芸術デザイン専門学校建築デザイン学科

2019 年度卒業設計優秀作品 工業高校の部

金賞

Lindsay Park~国境を越えた姉妹都市の絆~

代表者 森田 創 北海道名寄産業高等学校建築システム科

銀賞

旭山動物園 リノベーション

代表者 1 山崎 梨那、代表者 2 石原 慶一 北海道旭川工業高等学校建築科

銀賞

新たな繋がり~名寄公園を賑やかに~

代表者 木村 亮太 北海道名寄産業高等学校建築システム科

2019 年度卒業設計優秀作品 大学の部

銀賞

「空き」の営み

加野 和奏

北海道大学工学部環境社会工学科建築都市コース



北海道岩見沢市の中心市街地で見られる「空き地」を活用して、今までの町の「裏」を「表」に変換していこうという意欲的な作品である。「空き(地)」に面する建築のファサードに「透き」と呼ばれる半外部空間を増築し、老朽化した既存建築にプライバシー、耐震補強、断熱改修、路地空間などをもたらしている。特筆すべきは看板や風除室、トタン屋根やベランダなどからなる37個の「町の要素」の存在である。これらは作者が敷地調査を通して見出した町の記憶といえる。それらを「透き」に散りばめることで「裏」を既存の町との連続性をもった「表」に変換することに成功している。以上の点から銀賞にふさわしい作品であると判断した。(小倉寛征)

銅賞

「耕人たちの帷幄」—温泉熱の転換による、農産共同体の暮らしと風景の提案—

山内 翔馬

北海学園大学工学部建築学科



疲弊する農村の活性化を図る複合施設の計画である。地域資源である温泉を活かすことをテーマに、地域の様々なデザイン要素であるマンサードやブロック造の建物をサーヴェイし再構成することで、地区の歴史と現在の生活をリンクさせた肩肘の張らない施設となっている。パターンランゲージよりも緩いデザインの選択が現代的であるともいえる。未来に向けた新しい地域のカタチを生み出すまではいかないが、丁寧な作業と図面や模型の表現が本年度の賞に値することから銅賞とする。(斎藤文彦)

2019 年度卒業設計優秀作品 大学の部

銅賞

「触風景」

坂本 修也

北海道科学大学工学部建築学科



この作品は何をしたいのか、何の解決になるのかがよく判らず、理解するのに時間がかかった。道路のない敷地（実際には建てられない敷地）に4面を囲まれた都市の空隙に、それぞれの異なる環境をトレースして、地区の特質さえも取り込もうとした意欲的な作品と理解した。最高の取り方や床の存在も興味を持ったが、平面図もないし、建築的な図面所作としては欠けていると感じた。図面というツールを使う以上、人に伝えるという建築の手法は令和になっても変わらないのだ。（中山真琴）

2019 年度卒業設計優秀作品 短大・高専・専門学校の部

金賞

「海を歩く」

黒澤 奎太

北海道芸術デザイン専門学校建築デザイン学科



人口減少が続く室蘭市の再生プロジェクトです。

その打開策として観光産業が注目される中、室蘭の持つ観光的資源を自然景観資源として海と歴史的産業及び景観資源として港湾と工場景観・白鳥大橋と鉄鋼産業に注目し、計画が構成されている。施設は海と一体化する水盤・テラスデッキやギャラリー・レストランが3層の立体の回遊型プランで海と風景を取り入れ固有の魅力的空間が実現している。鉄鋼の素材とガラスと白い仕上げで直線を多く使用してつくられた外観は背面の白鳥大橋と水平に広がる形態と鉄鋼の素材・ガラスと白い仕上げで景観的に融合し新たな観光拠点として独自の存在感のある`新たな場所`の創出となっている。計画の視点と表現は新しい創造力を感じる金賞にふさわしい作品である。(遠藤謙一良)



銀賞

くわのきクラフトセンター

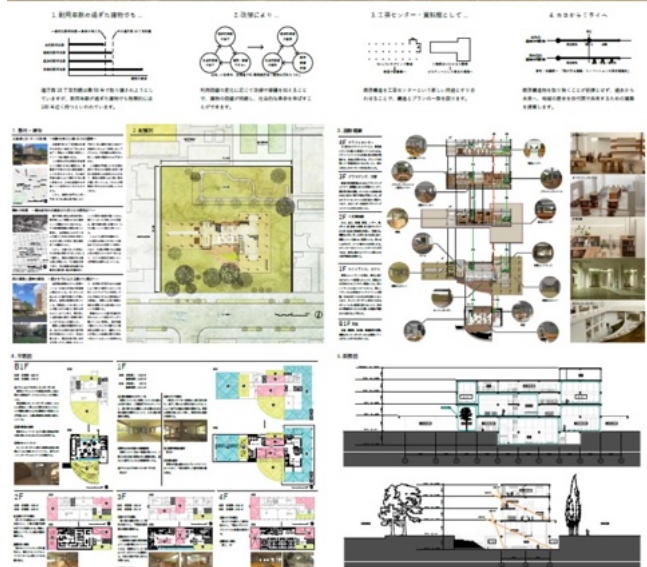
北海道庁西 18 丁目別館の再利用による市民工芸センター・資料館の提案

濱田 智紀

青山建築デザイン・医療事務専門学校建築学科

## くわのきクラフトセンター

北海道庁西 18 丁目別館の再利用による市民工芸センター・資料館の提案



既存庁舎の躯体を再利用し市民に開放された施設に再編する提案である。建築を残すということと、敷地を開放しその土地の持つ歴史を市民に伝えるということが調和して親しみの持てる建築となっている。改築の手法としては主に壁を抜く、スラブを撤去するなどの減築の手法によるが、それにより生み出されるピロティ、吹抜けがアクティビティや上下階のつながりを生み出し、豊かな空間として再生された。この現実的なアプローチによる魅力的な空間づくりの力量は銀賞に値する。欲を言えば隣接する公園を含んだ外部空間とのかかわりの提案が欲しかった。模型がとてもきれいに作られていたのも好感の持てる作品。(菅原秀見)

2019 年度卒業設計優秀作品 短大・高専・専門学校の部

銅賞

未来を支える~新型牛舎モデル~

一條 桃華

北海道芸術デザイン専門学校建築デザイン学科



近年は若者の農業離れが問題となっており、この提案の浜中町も例外ではない。どのように酪農業の魅力を伝えるかが課題の中、「観光」というかたちで農業の本質と魅力を伝えることに着眼したものである。ここでは農業見学が出来るフリーストール牛舎や育成舎等の配置の効率化を計り、次に搾られた牛乳を使用したお菓子づくりの体験を工房で楽しむことも出来る。併設された店舗では地元の特産物をはじめこの製品の販売も行っている。体験や見学をゆっくり行えるよう宿泊施設も完備された充実度である。牛舎はじめ施設は光や換気などのことを考慮し、また雄大な大地を想起させる波形デザインの採用など隅々まで農業に魅力あふれる提案が散りばめられた秀作である。(小西彦仁)

2019 年度卒業設計優秀作品 工業高校の部

金賞

Lindsay Park～国境を越えた姉妹都市の絆～

代表者 森田 創

北海道名寄産業高等学校建築システム科



名寄市に住む若者にとって建築的な希望は未来を紡ぐ、切実な問題として作品を通して訴える。本来建築とは、生命を守る。という役割とは別に目や心を楽しませるといふ、重要な目的がある。海外コンペなどではこの点を重要視される。このリンゼイパークは若者視点によって街をどう変えたいか、どう発展させたいか、それぞれの問題点を浮上させ、糸口を明示している。この爽やかでちょっとロマンチックな提案は非常に見ていて心地よい。カナダの結びつきなども微笑ましく描かれている。各施設も楽しく、素直に。かつ巧妙に設計されている。模型での説明もわかりやすく、それぞれ納得のいく内容であった。まさしく金賞に相応しい作品である事は審査員全員の一致を見た。（中山 眞琴）



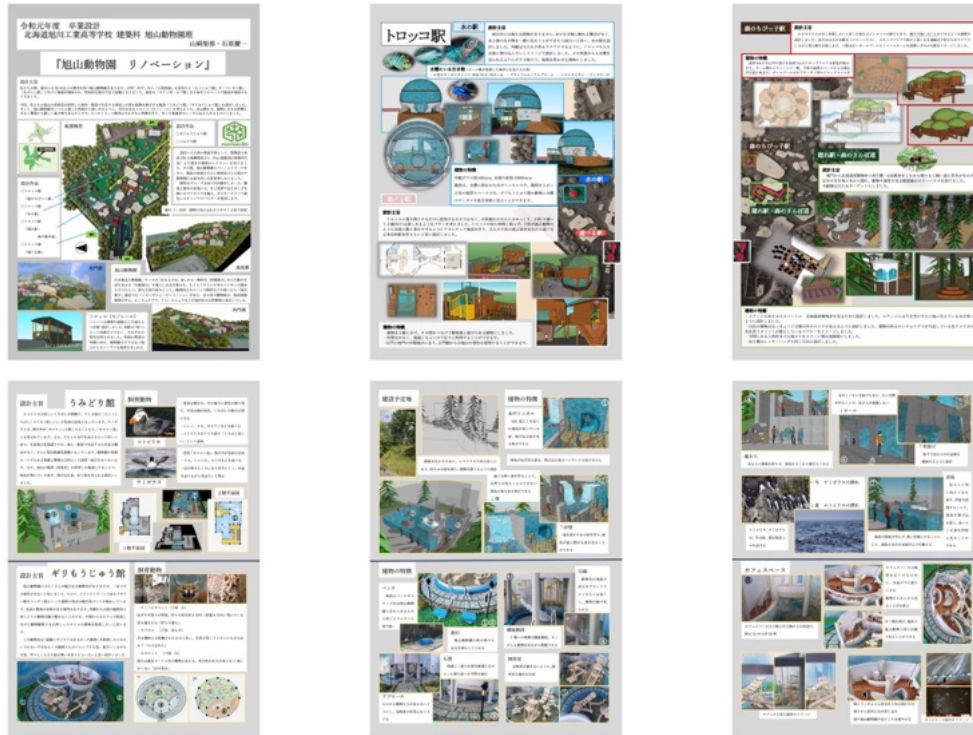
2019 年度卒業設計優秀作品 工業高校の部

銀賞

旭山動物園 リノベーション

代表者 1 山崎 梨那、代表者 2 石原 慶一

北海道旭川工業高等学校建築科



今や旭川最大の集客施設となっている旭山動物園の整備計画である。混雑の緩和と移動の利便性向上に対して、トロッコ（モノレール）をアトラクションとしての楽しみのある駅とともに提案し、動物舎としては、うみどり館、ギリもうじゅう館という、今後整備の必要となる施設も計画している。動物園全体を見た上で必要な施設を探った点や、ネーミングを含めた明快な設計主旨や自由なデザインなど、高校生として秀でていることから、銀賞とする。（斎藤文彦）

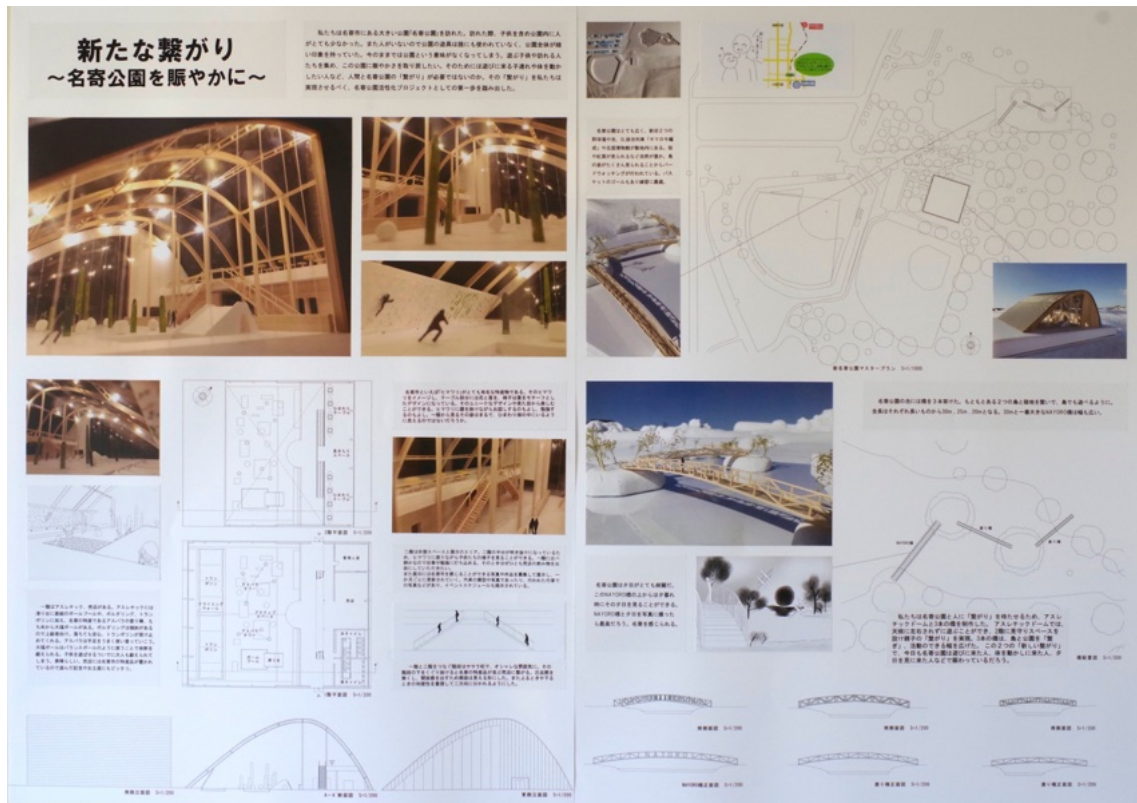
2019 年度卒業設計優秀作品 工業高校の部

銀賞

新たな繋がり～名寄公園を賑やかに～

代表者 木村 亮太

北海道名寄産業高等学校建築システム科



名寄公園を活性化させるための提案である。四季により北海道の公園は利用率が変動するが、少子高齢化社会の影響も伴い、地方都市では公園利用者が減少しているのは事実である。ここでは市民が老若男女問わず使用できる空間を公園につくり人々の賑わいを復活させたいという思いが詰まっている。1階のアクティブスペースでは子供たちが遊び回り、吹抜けを介した2階は静のスペースとして父母が子供を見つめ、学生は学習、老人は散歩の休憩にと言った情景が浮かぶ。北国の公園にこのような採暖をかねた空間はさらに利用率を上げる。ガラス張りの温室のような大空間は冬も心地よいに違いない。ストラクチャーデザインも美しく人々に夢を与える優秀な提案である。(小西彦仁)